

こんな活動です

まさに社会に開かれた教育課程を実現 - 潮田共学舎による地域学校協働活動 -

活動名

関係する学校名

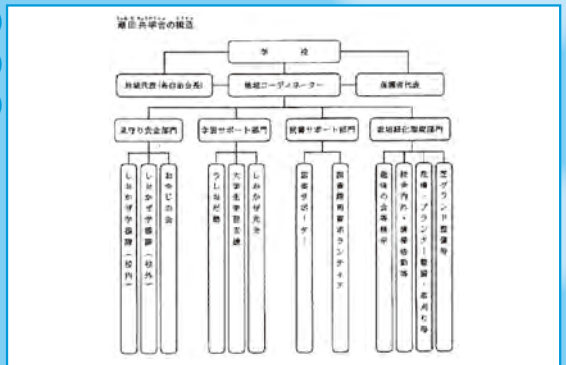
神奈川県横浜市

「潮田共学舎」による地域学校協働活動

潮田小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		0人	5人	134人	有	24年度	有	有	無
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携				
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	2人	20人	有	22年度	有	無	無	
コミュニティ・スクール		指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

体制図



活動の概要
活動の拠点である潮田小学校は創立143年目を迎えており、地域や保護者は学校教育に対し大きな期待と信頼を寄せている。また、地域は学校や教育活動に対し、かねてより協力的で、地域ボランティアによる登下校の見守り活動（しおかぜ学援隊）、土曜日を活用した学習支援（うしおだ塾）等、の学校支援活動を実施してきた。平成24年度に、これらの学校支援活動を一体化し、ボランティア組織「潮田共学舎」（体制図参照）を発足した。命名にあたっては、潮田小学校の子供たちがよりよく成長すると同時に、地域や保護者が、共に活動をとおして学び、育つ学舎（まなびや）をつくらうとの願いが込められている。

活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

5名の地域コーディネーターと教職員（管理職、教務主任、児童指導専任教諭等）は、定例会において、学校とボランティアの両者にとって有意義で効果的な活動を実施するため、情報・意見交換を行い、組織運営に取り組んでいる。地域コーディネーターを中心とした運営委員会では、学校行事計画や各学年の教職員からの依頼をもとに、活動計画を立てている。保護者、保護者OB、地域住民、学生等で構成される学校支援ボランティアは150名を超え（含む「うしおだ塾」）、活動内容は多岐にわたる。特にこの数年間は、活動が充実し、子供たちの成長と、潮田小学校の教育活動を側面からサポートしている。

【運営委員会】

- 定例会開催（月1回）
- 学校支援ボランティア募集に係る広報活動（入学説明会、学校説明会、地域懇談会等で募集、随時受付）
- 「潮田共学舎ハンドブック」の作成
- ボランティア名簿の作成
- 学校支援活動の実施

【学習サポート部門】

- しおかぜ先生…1年生への学習支援及び見守り活動（4～5月）
- しおかぜアシスタントティーチャー…家庭科や理科の実習、実験の支援、クラブ活動の補助（4～2月）
- 夏季宿題教室における夏休みの宿題サポート（7月）
- 校外学習、遠足引率…グループ活動の見守り支援、学校行事（運動会等）への支援

【読書サポート部門】

- 図書サポーター…読み聞かせ、図書環境整備等の活動
- 学校図書館司書支援…学校図書館の活用支援（週1回）
- 定例会開催（月1回）

【栽培緑化環境部門】

- 美化、清掃活動…校内外の清掃及び美化活動
- 植栽芝栽培一般…花壇プランター等の管理、芝刈り及び散水等

【見守り安全部門】

- 安全見守り支援

【その他、地域活動への学校の参加等】

- 年度当初に全校児童とボランティアが参加し、「共学舎よろしくをお願いしますの会」、年度末に「共学舎への感謝の会」を開催
- 地区懇談会に全教職員が分担して参加し、地域の声を教育活動に生かす取組
- 臨海フェスティバル等の地域行事への子供たちによる特別クラブ「エイサー（沖繩民謡）隊」「チャンゴ（韓国打楽器）隊」「鼓笛隊」の参加
- 「まちとともに歩む学校づくり懇話会」（学区の町会長で構成）に教職員が参加し、地域による学校支援、学校の地域貢献について意見交換を行っている。
- 潮田大祭とその後の清掃活動への児童・教職員の参加

【実施に当たっての工夫】

- コーディネートの流れ（地域コーディネーターの調整と、「依頼カード」の導入により、教職員の負担軽減につながっている。）
- 1 教職員は、潮田共学舎による支援を希望する活動について、「依頼カード」（記入内容：日時、活動内容、人数、持ち物等、依頼内容等）に記入し、地域コーディネーターに提出
- 2 地域コーディネーターは、加入しているボランティアに、メールで依頼内容について情報提供
- 3 活動への参加を希望するボランティアは、その旨をメールで返信
- 4 地域コーディネーターは、活動できるボランティアの人数を確認し、調整
- 5 調整結果を学校に連絡

事業を実施しての効果・成果

【問題行動の激減、学力の向上】

- 多くの大人が子供の教育にかかわることで、学校内の問題行動（児童間トラブル等）が激減した。
- 学校運営が安定したことにより、子供たち一人ひとりへの手厚い支援が行われた結果、学力が着実に向上している。（客観的データ有。学校説明会等において保護者、地域に説明している。）

【教師の業務改善】

- 地域コーディネーターが、ボランティアの調整等を担うことにより、教職員の負担軽減につながり、子供たちと一人ひとりと向き合う時間がとられている。
- 学習場面にボランティアが入ることで、教職員が学習指導に専念することが可能になり、授業の充実が図られた結果、子供たちの学力の向上に寄与している。

その他

【上記以外の学校支援活動の内容】

- 児童一人ひとりの個性や習熟度に応じた学習支援（入り込み指導、取り出し指導）

【土曜日の教育活動での学習支援の内容】

- 個別の学習支援（うしおだ塾：児童1名もしくは2名に対し、ボランティア1名が支援）

【学校支援活動でのICT活用】

- 学校ボランティアの募集、連絡等で無料メール配信サイトを活用している。



読書サポート部門の読み聞かせ



月1回の定例会で、よりよい活動になるために意見交換